

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

敦賀市立敦賀西小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

「学校評議員会」

【地域】

区長（2名）、主任児童委員（2名）
 青少年育成推進委員長（1名）
 交通指導員（1名）
 見守り隊代表（1名）

【PTA】

PTA会長（1名）、副会長（1名）

【学校】

校長、教頭、教務主任

「地域コーディネーター」

【地域コーディネーター】

敦賀市西地区公民館長（1名）
 敦賀商工会議所青年部職員（2名）

(2) 協議会の内容

回	月	時期	協議内容
1	6	10	授業参観 児童・学校に関する情報交換、 課題把握・解決策の協議
2	7	上旬	商工会議所との情報交換 お仕事体験事業、地域活性化事業について
3	10	中旬	西地区公民館との情報交換 地区の行事等の参加について
4	12	4	学校行事参観 児童・学校に関する情報交換 課題把握・解決策の協議
5	3	2	学校評価講評・次年度の課題 次年度の行事計画

(3) 協議会における成果と課題

- 今年度は、地域コーディネーターにお願いして、本市商工会議所青年部との関係を深め、本校および本校PTAと共催で、「子どもお仕事体験」を、本校施設で実施できたことは、とても大きな前進であった。校区内の様々な業種の方が積極的に参加し、本校児童へ「仕事にかかる情熱」「地元で仕事をする意義」「ふるさとへの思い」を、熱心に伝えていただいた。その結果、「やってみたい仕事が増えた」「自分のまちで仕事をしてみたい」という意識が高まった成果は大きい。学校評価においても、保護者からは「是非今後も継続して実施してほしい」という声が多く寄せられ、学校評議員の委員からもよい試みであるとの評価を受けた。
- 8年ほど前に、地域の文化作品を本校に展示する形で地域との交流を深める活動「西小ギャラリー」という試みを実施していたので、今年度は、公民館との関わりも深め、地域人材の発掘および連携を進めるために「西小ギャラリー」の復活を試みた。現在、どのような形で作品の提供を受け、展示期間や展示方法について調整しているが、今年度中に実施できなかったのは、残念である。具体的な形での実施を今後も計画する必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

敦賀西小学校は、戦国武将大谷吉継が当主であった敦賀城跡に縁のある校区であり、敦賀市で最も古い歴史を持つ小学校である。昨年度は、敦賀西小校区の歴史と伝統から先人の努力と足跡を学び、敦賀の後継者である自分たちの生き方を考えた。そこで、今年度は、地域活性化に努力している地元の人々との関わりを通して、歴史と伝統を守ろうとするふるさと意識から、地元民として、地域活性化を図ろうとする当事者意識を高め、自分たちが将来の地域人材としての自覚を持たせるようにした。

○ 敦賀西小校区及び敦賀市の歴史、伝承資産を調べる活動を通し、歴史と伝統から先人の努力と足跡を学ぶ。

○ 地域の専門的な人材や、地区の公民館、市の観光課、地域の商工会等との関わりを通して、地域活性化の現状を知るとともに、当事者意識を持って、地域資産の活かし方や、地域活性化について考える。

(様式3)

(2) 活動の実際

①【地域のお仕事資産とつながろう！(1年～6年)】

5, 6年生を中心に、市商工会議所と、地域の仕事について調べる活動を実施。その発展として、商工会議所青年部が行っている「子どもお仕事体験活動」を本校の教室や体育館を利用し実施した。校区内の事業者を中心に、敦賀市内で開業している地元業者がそれぞれブースを開設し、4種程度のお仕事体験を行った。参加は、PTA活動と関連付け1年～6年までの自由参加にし、1～3年は保護者同伴の活動とした。地



域にしながら、知らなかった多くの職種の方と直接触れ合うことにより、働くことの目的、多くの仕事で地域が支えられていることを実感したようだ。体験後のアンケートでも、「今まで知らなかった仕事を体験できて、やりたい仕事が増えた」と言った声が多く集まり、「もっとたくさんの仕事を体験してみたい」という気持ちを持った



児童が増えた。海上自衛隊、警察官、消防士など、公的な機関の協力も得ることができ、自分たちの生活が多くの人に支えられていることを実感した児童も多くいた。今後も商工会議所との関係を深め、PTA活動とも関連付けながら、保護者も含めて地域を考える活動へと発展させていきたいと考えている。

②【地域を盛り上げよう！(3年～6年)】



「気比の杜フェスタ」は、本市の中心にある気比神宮を中心にした地域活性化イベントである。そのイベントに「手作り灯籠」を作成する形で参加した。地域のイベントには参加するものの、その主催者の思いや意図には、無関心なことが多い。その主催者を招聘し、そのイベントの一端に協力する形をとったことにより、自分たちで地域を盛り上げる気持ちを高めるために行った。また、敦賀港近くの緑地公園において、「敦賀港イルミネーション ミライエ」の「千人千灯」にも参加した。地元のイベントを鑑賞するだけではなく、自分たちの手作りのイルミネーションで参加することにより、地域を自分たちで盛り上げていこうとする機運は高まったと思われる。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- 敦賀市商工会議所青年部の担当者として、「子どもお仕事体験」のために、地域の業者へ参加を呼びかけ、折衝および、スケジュール管理、ブースの振り分け等を行った。
- 地域の資産の情報源として地域の情報(特に人材)を収集し、学校へ提供した。

(4) 特に工夫した事項

- 地域の商工会議所、PTA活動と関連付けることにより、質の高い体験活動を効果的に実施できるようにしたこと。
- カリキュラム・マネジメントの視点を持って、ふるさと学習を進めると同時に、3年、5年、6年における社会科、理科、総合的な学習の時間の教科のねらいが達成できるような構成にしたこと。

3 成果と課題

【成果】

- 地域を支える仕事への関心が高まり、地域への愛着が増した。(全学年)
- 専門の事業者と直接つながったことにより、地元で働くことへの意義や思いを、肌で感じることができ、自分も地域の未来の人材である自覚が芽生えた。(5, 6年)
- 「ふるさと遺産」を発掘、PRしたことにより、地域および自分への肯定感の高まりがみられた。(3, 5, 6年)

【課題】

- 「お仕事体験」を今後、どのように本校のキャリア教育の計画に組み込み、位置づけるかを明確にしていく必要があり、継続的な活動にするためには商工会議所との定期的な関わりをしていく必要がある。今年度は教頭が窓口となって進めたが、学校外の機関との折衝には、綿密な調整が必要である。
- キャリア教育として、地域の活性化を考えさせるために、児童と商工会議所職員と「地域を考える会議」を計画したが、学校側と商工会議所のそれぞれの目的の共有が不十分であったため、指導者段階でしか実現できなかった。